

集団化を進めた地域計画策定の取り組み

【長浜市農業委員会】

【農業委員会の体制】

農業委員数 37名

1. 現状、課題・問題点

(1) 担い手への集積は進んだものの集約化までは至っていなかった

農業委員が在住するA地区では、農家の離農・規模縮小が進展し、地区内の担い手が「集約化」を望んでいた。

(2) 単独集落での地域計画策定が困難

地区内の担い手は複数集落での出入り作があり、単独集落での地域計画の策定が困難だった。

2. 課題解決に向けた活動

(1) 地域計画策定を推進する「代表者会議」をリード

a 集落の生産組合長で大規模農業法人の社長でもあった農業委員が他の3集落の生産組合長（うち1人が地域の担い手）とともに地域計画の策定を進める「代表者」に就任。4人が協力して同計画を作成することとし、現況の耕作状況を基に農業委員と担い手の代表者で「将来のあるべき姿をどうするか」といった視点で目標地図の策定をリードした。

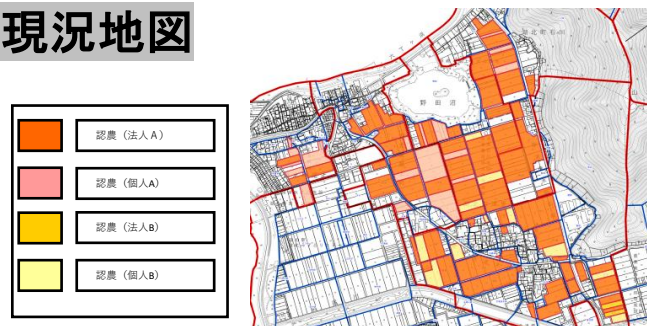
(2) 「公平」な姿勢で話し合いに参加

A地区の70歳代の担い手が近い将来リタイヤする意向が示されたことから、その耕作地の望ましい引受者を代表者で話し合った。話し合いでは、農業委員であることから「公平」を心がけ、大規模法人の社長の立場もあるが自社の利益は「ゼロで良い」と、他の経営体に働きかけた。これにより、農業委員が経営する農業法人を含む3経営体でA地区の97.3%が集積され、集約化された目標地図が策定された。

3. 活動の成果

- ・リタイヤ意向の担い手の地域への働きかけもあって地代の統一が図られ、目標地図の実現に向け2年間で3～6haの耕作権交換により集約化が実現できた。
- ・集約化が図られたことで畦畔除去による大区画化に繋がった。

現況地図



目標地図

